

会議録（要点録）

会 議 名	第7回 第3次八王子市教育振興基本計画策定検討会	
日 時	令和元年（2019年）6月26日（水）午後7時00分～8時30分	
場 所	八王子市役所 本庁舎 702会議室	
出席者氏名	参 加 者	和田孝、高橋洋、香取武雄、関口眞吾、中原教智、新庄良輔、石渡ひかる、野牧宏治 : 座長 : 副座長
	教育委員会事務局職員	設樂恵 学校教育部長、斉藤郁央 学校教育指導担当部長、小山等 生涯学習スポーツ部長、佐藤宏 図書館部長、橋本盛重 学校教育政策課長、野村洋介 学校教育統括指導主事、安達和之 生涯学習政策課長、太田浩市 中央図書館長、清水秀樹 スポーツ振興課長、佐藤晴久 スポーツ施設管理課長、新堀信晃 学習支援課長、菅野匡彦 文化財課長、平塚裕之 歴史文化基本構想担当課長、遠藤譲一 こども科学館長、新納泰隆 生涯学習センター図書館長、中村東洋治 南大沢図書館長、成田俊雄 川口図書館長、
	事 務 局	三枝信博 学校教育政策課主査、持田勝 学校教育政策課主査、上島加奈子 学校教育政策課主事
欠 席 者	真喜志尚子	
次 第	1 開会 2 議題 今後10年間を通じてめざす教育の姿「3 いくつになってもともに学び続けられる生涯学習環境の充実」の各施策について 3 その他 4 閉会	
公開・非公開の別	公開	
傍 聴 人 数	なし	
配 付 資 料 名	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・第6回 第3次八王子市教育振興基本計画策定検討会会議録 ・資料1 第3次計画施策体系の当初案との対比 ・資料2 今後5年間に取り組む施策（施策番号28～38） ・資料3 指標一覧 	

	会議の内容
	1 開会
座長	第7回策定検討会を開始する。 今回は「今後10年間を通じてめざす教育の姿『3 いくつになってもともに学び続けられる生涯学習環境の充実』について、事務局の説明後に意見をいただく。
	2 議題「今後10年間を通じてめざす教育の姿『3 いくつになってもともに学び続けられる生涯学習環境の充実』について」
事務局	資料1～3について説明。
座長	事務局から説明があった施策案に対して、参加者の皆さんから質問や意見を願いたい。
参加者	施策38「文化財関連施設の拡充」について、八王子ビジョン2022素案作りに市民委員として携わった。郷土資料館の老朽化に伴う改築にあわせて、多世代が集えるようにするなど、さまざまな機能を盛り込んだ施設にしてもらいたいと提言した経緯がある。それらの意見を、「歴史・郷土ミュージアム」の考え方として「八王子駅南口集いの拠点整備基本計画」に組み込んでいただいたようだ。今回の第3次計画の施策案の中でも同様に、蔵書の充実を図ることなどと共に盛り込まれており、八王子ビジョン2022策定時の構想が着実に実現に向かっていくように思われ嬉しく思う。
参加者	施策28「誰もが学べる環境づくり」に関連して質問だが、指標に掲げている「生涯学習活動をしている市民の割合」と「生涯学習活動の成果を地域活動に活かしている市民の割合」の定義がどのようなものか分からないので説明を。
事務局	「生涯学習活動をしている市民の割合」については、毎年実施している市政世論調査で、「1年間にどのような生涯学習活動に取り組んだか」を問う設問に対し、「趣味的なもの」、「健康・スポーツ」、「教養的なもの」、「社会貢献活動」、「仕事に必要な知識や技能、資格の取得」、「情報端末やインターネットに関すること」、「家庭生活に役立つ技術」などのほか、「学校の正規課程での学習」などの生涯学習活動10項目と、「その他」、「取り組んでいない」から選択する方式の調査において、生涯学習活動10項目及び「その他」を選択した市民の割合である。 また、「生涯学習活動の成果を地域活動に活かしている市民の割合」については、「生涯学習を通じて身につけた知識や技能、経験をどのように活かしているか」を問う設問に対し、「自分の人生がより豊かになっている」、「自分の健康を維持・増進している」、「家庭・日常の生活に活かしている」、「仕事や就職の上で活かしている」、「地域や社会での活動に活かしている」の5項目から選んだ回答のうち、「家庭・日常の生活に活かしている」及び「地域や社会での活動に活かしている」と答えた方の割合を示している。 世論調査の回答者がどのようなイメージをもって回答しているのか不明なため、行政側が期待している数字とは差が生じている点においては、本設問の形式では本来の状況を正しく捉えられていないのではないかと疑問を感じているところである。
参加者	その設問内容であれば、生涯学習活動をしている市民の割合「90%」という八王子ビジョン2022で掲げている目標値は決して高すぎる目標ではないと思う。また、

事務局	<p>「生涯学習で得たことを活かしているか」と問われると、回答する側は身構えてしまうと思うので、数値が「8%」と低い理由としては、生涯学習活動に対する市民の理解が進んでいないところにあると思う。</p> <p>実際には、この調査結果の数字以上に市民は生涯学習活動をしているはずだと考えている。新聞や本を読むことなど、身近な活動も生涯学習であると捉えれば、もう少し数値は上がるはず。生涯学習の概念が市民に十分に周知されていないと思うので、生涯学習をより身近なものとして捉えてもらえるような取組が必要だと考えている。</p>
参加者	<p>施策 31「読書のまち八王子の推進」について、世代ごとに課題と必要な施策が異なると思う。市民センターの地区図書室の図書館化の取組は、本を借りる場所と返す場所が身近な場所になり便利になる。高齢者にとっては距離が遠い行きにくいので、既存の施設を利用して本の貸出をすれば、市民の読書率が上がるのではないかと思う。</p> <p>施策 37「歴史文化の保存・継承と活用」について、歴史文化を活用することはよい取組である。ブランドメッセージが「あなたのみちを、あるけるまち。八王子」であるのならば、小さな城跡など、地域にある史跡などをネットワーク化して歩いて巡るような仕掛け・企画などがあるとよいのではないだろうか。本市の自然と歴史の良いところを観光施策とリンクさせた取組を実施してほしい。</p>
参加者	<p>指標「生涯学習活動をしている市民の割合」の現状値が、八王子ビジョン 2022 策定時の平成 23 年度には 71.3% だったが、平成 28 年度には 60.7% と値が下がっている。しかしながら、目標値は変わらず 90% の目標設定のままでよいのか。</p>
参加者	<p>全市域で見ると、図書館の数が少ないようだ。例えば、学校図書館を一般の市民（保護者や地域の人）が利用できる施設に変えることはできないか。学校が地域とのつながりを深めるといふ視点で言えば、単に本を読んだり借りたりするだけでなく、地域の住民が集える場所でもあるとよい。「開かれた学校」を目指すのなら、学校図書館を開放して、保護者や学運協などのメンバーに限らず、放課後の子どもの居場所や地域住民の拠点として、誰でも利用できるようにしてはどうだろうか。</p> <p>高齢者や放課後の子どもの居場所としても活用すれば、子どもたちと図書室に来た地域の方との交流も生まれて、生涯学習の振興につながると思う。</p>
参加者	<p>学校図書館を利用することはとてもよい案であると思う。現状の学校図書館は普通教室 2 部屋分くらいの面積に児童書を約 1 万冊揃えている。地域の方が利用できるように、大人向けの本が揃えられるかが課題である。児童・生徒向けの図書スペースと地域の方向けの図書スペースを同じ空間でもよいが明確に区分できればよいと思う。また、防犯上、セキュリティ対策が求められているため、児童・生徒が在籍する時間帯に、不特定多数の人が出入りすることへの対策があればよいと思う。</p>
参加者	<p>誰でも利用できるようにするためには、部屋を分けたり建物を別棟にしたりするなど、地域向けの図書館を学校の空間とは分けた形で整備する必要はある。その際は、セキュリティ対策は当然大切である。また、今後、少子化が進み、将来統廃合され学校がなくなる地域にとってはデメリットが大きいので、廃校後の校舎の一角を地域の図書館として整備することもよいことだと思う。</p>
参加者	<p>学校図書館を市民に開放するとなると、施設を別棟にしたり、司書も別々に配置したりする必要があり、施設計画の最初の段階から検討していかないとならない。今ある施設を地域に開放しようとする課題が多い。</p>

事務局	<p>既存の学校図書館は、学校司書が児童・生徒向けに選書している。大人向けのものまでも蔵書するとなると、選書の方法やセキュリティ面、蔵書の保管スペースの確保など、いくつかの課題はある。学校図書館を子どもと大人の交流が図れる場として活用することは、今後の公共施設再編を進めるなかで、学校が地域コミュニティの核となるための一つの案として参考にしたい。</p>
参加者	<p>学校のセキュリティ面を考慮するならば、学校図書館を在籍する児童・生徒の保護者に限れば開放することは可能ではないか。</p>
事務局	<p>学校図書は児童・生徒のための資料であるため、保護者のために選書はされていない。お子さんの家庭学習のための資料などであれば考えられるかも。</p>
参加者	<p>学校図書館の質についてだが、学校司書が代わったとたん、新たに赴任した司書から「図書・資料の管理がされていない」「本の維持管理が出来ていない」などの指摘を受けたことがある。以前の司書は、子どもたちが図書に親しみ易いよう、図書館の装飾に力を入れてくれていたので、本の管理にまで手が行き届かなかったためだと思う。司書それぞれの個人的な考え方で学校図書館を管理するのではなく、一定の基準に基づいて管理されるものではないのか。</p>
事務局	<p>現在は、学校図書館サポートセンターの担当者が各学校を定期的に巡回して、学校図書館の状況に対して助言している。そのほか、司書向けの研修も実施したり、連絡会を開催したりして司書同士で情報交換をしているが、司書一人一人の考え方に特色や個性もあるため、一律に同じにはならない。長い期間一人の司書が同じ学校に在籍し続けることも問題だと感じる。</p>
参加者	<p>施策 28「誰もが学べる環境づくり」の施策の方向と主な取組について、「共生社会の実現に向けた学習機会の充実」とあるが、最近本市でも外国人の割合が増えてきている。駅などでも日本語のアナウンスの次に、中国語、韓国語、英語など、外国語が聞こえてくる。今後 10 年間を見通す計画であれば、日本語を母語としない外国の方への配慮は必須であり、そのための環境整備をしなければならないと思う。</p> <p>また、図書館では、日本人向けの図書が多くを占めるが、今後は外国人向けの図書も意識して蔵書する必要があると思う。さらに、八王子駅南口に整備する予定の「憩いライブラリ」や「歴史・郷土ミュージアム」においても、外国人に配慮した施設整備をすることで、高尾山を目指して訪れる外国人観光客に帰り道に立ち寄りもらえるようになり、経済的効果も高まり、市の活性化につながると思う。あらゆる点で「共生（共に生きる）」ということを計画の内容に意識していくことが重要である。</p>
参加者	<p>「誰もが学べる」、「いつでもどこでも」という観点から取り組み事例を紹介する。市内の小中学校と中学校が連携して、放課後に中学生が小学校へ出向いて小学生に学習を教える取組を始めた。この取組を通して、生徒は教えることの難しさを学んだという。市内の各学校が連携して、「教えることで学ぶ」取組を進めていったらよいのではないかと思う。</p>
参加者	<p>施策 28「誰もが学べる環境づくり」の「現状と課題」で、「はちおうじ出前講座」を受講した方が年間約 23 万人いるとのこと。全体の受講者数が多いことはとてもよいことだが、受講者の内訳などをより一歩踏み込んで把握することで、施策を展開することができるだろう。例えば、生涯学習の裾野を広げるという視点であれば、新規受講者数が増えることが望ましいが、生涯にわたって学ぶという視点であれば、</p>

<p>参加者</p>	<p>リピーターが多い方がよい。「1年間に生涯学習活動に取り組んだ市民の割合」が52.2%とのことだが、どのような講座でどのくらいの世代の方が受講しているのかを、講座ごとに検証する必要があると思う。</p> <p>また、生涯学習センターなどの自習スペースの整備については、今後の子どもたちの学習スタイルを考慮していけるとよいと思う。子どもたちは今後、社会に出ると他者と議論し合い、協働して仕事をするのは必須である。そのため、1人での学習ではなく、2～3人で相談し合いながら学び、高め合えるような機会や環境が必要である。</p> <p>読書施策については、中学校では子どもたちの読書活動を促すよう努力している。しかし、家庭に戻ると読書を一切していないように見受けられる。学校では、調べ学習のための資料を中心に蔵書していることから、一般書などの蔵書が不足していることが課題。</p> <p>出前講座の中に、地域の企業と連携し市民にとって身近な清掃方法や料理、文化などをテーマにした講座を企画していくと良いと思う。身近なテーマを設定することで、市民の「生涯学習」に対するハードルを下げたり、自治会や町会の集会などで出前講座をしたりするなど、誰でも気軽に受講できるような工夫が必要である。また、横断歩道の渡り方など、外国人へのマナー講座や、日本人にとっても伝承してほしい文化についての講座など、生活に密着したものを積極的に取り組んでほしい。</p>
<p>参加者</p>	<p>施策 29「学びから広がる地域づくり」について、福祉部の地域サロンへの支援事業などはあるが、教育施策とのリンクはしているのか。「生涯学習」と聞くと身構えてしまうが、生涯学習の定義も含めて「いきいきサロン」のような活動も生涯学習であることを周知していくことも必要である。既に生涯学習の場は身近にあるし、さまざまな分野の団体と連携することで、発展させていけると思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>地域サロン事業とはリンクしていないが、ボランティア活動も生涯学習の一環であるため、施策展開の場を幅広く捉えていきたい。</p>
<p>参加者</p>	<p>施策案の構成を見ると、「子ども」と「リタイアした人」を対象にしていることがイメージできる。しかし、生涯学習で捉えた場合には、働き世代への施策を強化して、ライフステージに沿った連続的な施策が必要なのではないか。</p> <p>家庭や地域活動を顧みず、仕事一辺倒できた人が、退職して地域に戻ったから勉強してみたり、地域活動をしてみたいとしても、その人のライフステージにおいて断絶が起きてしまうような気がする。全体の施策体系の中で、連続的な生涯学習に取り組めるような仕組みなどはあるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>生涯学習と聞くと、一般的には現役を終えてから取り組むような「趣味の世界」のイメージをもつ。これまでの計画でもそのような印象である。しかし、仕事で分からないことがあれば調べて勉強するし、講座を受講したり研修を受けたりもする。誰もが生涯学習をしており、していない人はいないはず。生涯学習の固定観念によって、世論調査では生涯学習に取り組んでいる方の割合は下がってしまっているのは事実。イメージは払拭しなければならない。</p> <p>今や、終身雇用の時代ではなく、リカレント教育が主流。若い世代は就職先の企業を踏み台にしてステップアップしていく人が多い。生涯学習スポーツ部だけに留まらず、庁内の広い範囲にわたる事業を集約し、まずは生涯学習のイメージチェンジを図る必要があると思う。そして、学んだ成果を地域活動や社会に還元できるような仕組みを構築していかなければならないと思う。</p>

参加者	<p>生涯を通じて果たす役割や経験を積み重ねるライフキャリアの視点で言うと、役割や趣味にかけられる時間が世代によってだいぶ異なってきた。生涯学習は主体性が重要であるから、退職したあとに取り組むには、若いころから主体性が備わっていないとならない。自分の生活に関わってくることなど、若い世代に向けた取組は必要である。</p>
参加者	<p>小学生は本を読んでいる子が多いのに、中高生の不読率が高いのはなぜなのか。世代別に子ども向けの本を選書し、読書習慣を定着させたり、読書の楽しさをおぼえさせるような取組を展開してはどうか。</p>
事務局	<p>現在、小・中学校向けに、学年ごとのおすすめ本をセットにしたものを用意している。今後は図書館システムを活かして、利用状況をつかむ。中学生は友だちつてに口コミでおもしろい本の情報が伝わっていく傾向があるので、地道な取組が必要だと考える。</p> <p>中高生の不読率については、とにかく中高生はクラブや塾などで、読書するための時間がないことが要因となっているようだ。学年が上がるにつれて趣味的な読書よりも、調べるなどの目的のための読書をしている傾向である。今は忙しくて読めなくても、いつか時間ができたときに読書してもらえるように、小さいころから読書へ親しみをもってもらえるような取組を進めている。</p>
参加者	<p>小・中学生の読書率には、学校での読書分は調査に含まれているのか。学校に図書館があるので、学校の中で読書機会が十分に済んでしまっているのでは数字に現れていないのではないのか。</p>
事務局	<p>学校の読書は数値に含まれていない。市の図書館での貸し出し数によるものである。学校への貸し出し数は別途捉えている。</p>
事務局	<p>中高生の不読率は全国的に上昇傾向である。本市の図書館の小中高生への貸出状況は、小学生は過去7年間冊数が伸びており、年齢では10歳、小学4年生が多い。6～13・4歳をピークに、それ以降は減っている。要因はさまざまあるが、一つにはICT機器で気軽に動画を観られるようになったことなどがある。小・中学校では、朝の読書活動などに取り組んでおり、その成果は出てきている。読書率が下がっていることへの手立ては必要である。</p>
参加者	<p>OECDの調査でも、日本の子どもの読書状況は最下位に近い状態である。漫画だけは世界一だが、ノンフィクションは最低である。とにかく本を読まない状況が続いている。これまでの動向だと、小・中・高校では、読書活動に積極的に取り組んでおり、一時期読書率が上昇したこともあったが、最近また下がってきてしまい、効果が継続しない。</p> <p>外国の学校の授業では、教科書ではなく本を使っている。子どもころから専門性の高い内容の本に触れ、本を読むことで生涯の読書の財産にしている。一方日本では、幅広い内容を掲載した教科書を使用しているが、最終的に読書した本には含まれない。外国では子どもころから、かなり内容のあるしっかりしたハードカバーの本を読む習慣や、きれいな写真をたくさん見たりするような授業を展開している中で、本との距離が非常に近いのではないかという印象がある。それだけが原因ではないと思うが、社会環境が日本と似ている外国の子ども読書率が高いことに対して、日本の子どもたちが本を読まないというのは大きな問題だと思う。</p>
参加者	<p>施策全体の感想として、各施策の「主な取組」の内容が抽象的な内容になっており、これから何を、どのように取り組んでいくのか、具体的に見えてこない。例え</p>

	<p>ば、取組のまとめの文章が、「充実」、「促進」、「向上」などを書いてあり、一体何をするのかわからないので、どのように発言をしていいのかわからない。</p> <p>また、「施策の方向」と「主な取組」が逆ではないかと思われる書き方をしている施策もある。方針の方向を示しているものがあつたり、取組の内容を具体的に書いていたりする方向性もあるし、統一感が無い。</p> <p>今後期待するのは、「誰もが学べる環境づくり」から始まる、学びに関するところで、それを「支える基盤づくり」を進めてもらいたい。特に「学習相談体制の充実」、「充実」となっているので実際に何をするのかわからないが、いろいろな生涯学習に取り組もうとしている時に、アドバイスをしたり聞いてあげる学習相談をできる人たちが、もっと身近にいてほしいと思う。インターネットが普及して、いつでもどこでも調べられるが、ふらっと立ち寄って、受けたい講座の相談ができたり、地域への出前相談など、身近なところで相談相手がいるような環境があるといいと思う。</p> <p>これからは「つないでいく」ことが、重要になってくるし、年配になるとなかなか自分の判断だけで、どこに何をしに行っているのかというのがあるので、それを支援してあげるような体制ができると、もっと積極的に学びの輪が広がっていくと思う。</p>
座長	<p>事務局では、各参加者の意見を細かく拾ってくれており感謝する。今回の意見も参考に、素案に反映していただければよいと思う。</p>
	<p>2 その他</p>
事務局	<p>10月までに素案としてまとめる予定。施策の体系ごとに、順次まとまった部分から素案を送付するので確認してほしい。</p>
	<p>3 閉会</p>
座長	<p>次回の会議の開催予定について事務局から説明願います。</p>
事務局	<p>次回は7月24日(水)、場所は市役所本庁舎8階801会議室。時間は午後7時から予定している。</p> <p>次回の会議では、今後10年間を通じてめざす教育の姿「1 はちおうじっ子『生きる力』の育成」部分にあたる学校教育分野の施策について意見や助言をいただく。</p> <p>会議資料は、事前に電子メールにて送付する。</p>
座長	<p>本日はこれにて閉会とする。</p>